

# 小麦情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

## No.2

Tel. 018-860-3410

Fax. 018-860-3834

**明きよや排水溝の確認と、適切な追肥の実施を！**

### 1 気象経過

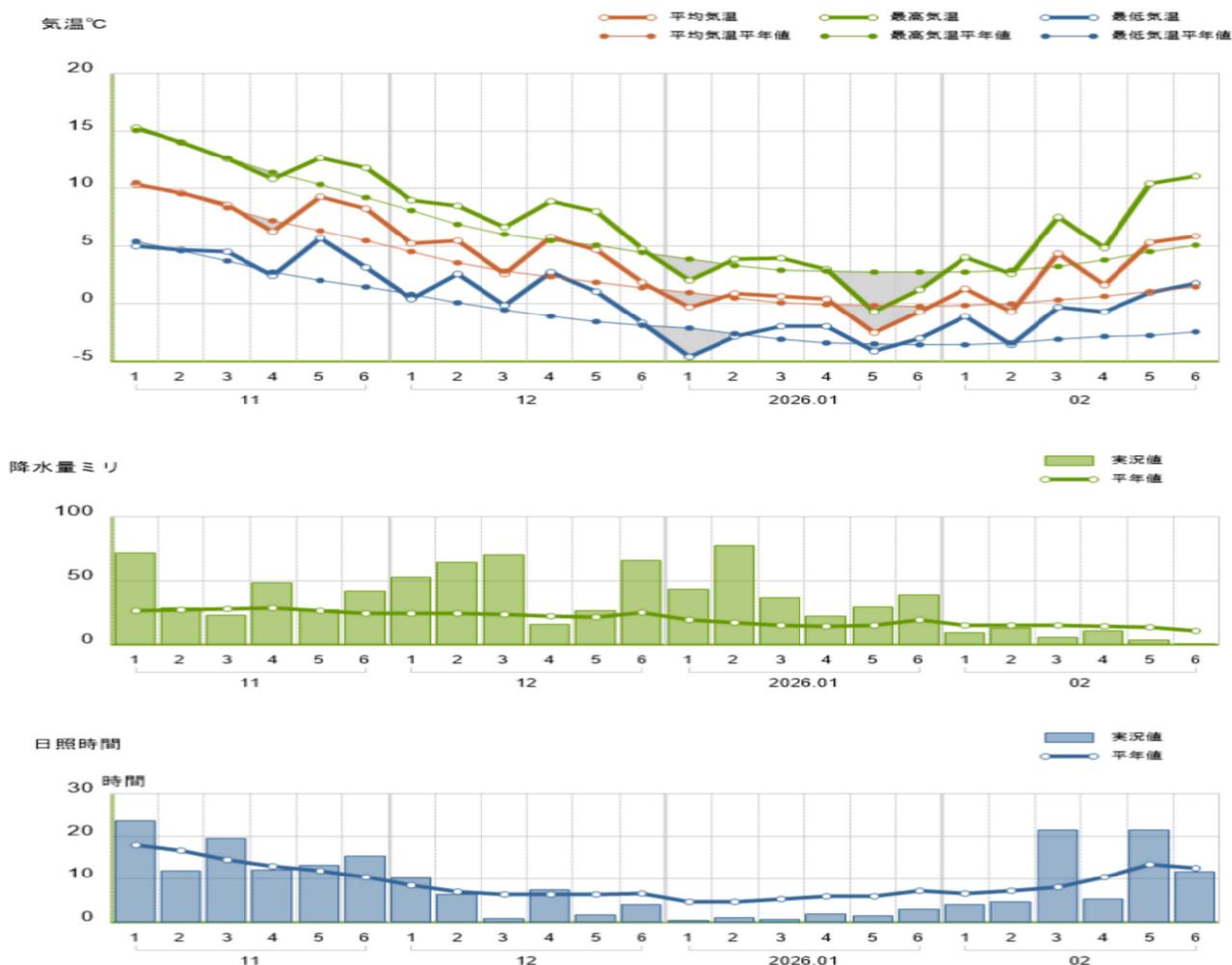


図1 半旬毎の気象経過(アメダス大湯、2025年11月～2026年2月6半旬)

〈概況〉

11～12月の気温は平年より高く推移しましたが、1月の気温は平年並～低くなりました。2月以降は気温が再び高く推移しています。

仙台管区气象台より2月27日に発表された1か月予報（2/28～3/27）では、向こう1か月の気温は平年並か高く、降水量および日照時間はほぼ平年並、降雪量は平年並か少ない見込みです。今後、ほ場へのがん類の飛来が本格化し、深刻な食害を引き起こす可能性があります。爆音器やテグスの設置等で十分な対策を実施しましょう。

## 2 令和8年産の生育状況

- ・11月28日の生育調査結果は、草丈17.2cm（平年比93%）、茎数815本/m<sup>2</sup>（同比93%）、葉数6.4葉（同差-0.5葉）となりました。播種作業の遅れや出芽後の低温寡照の影響により、越冬前の生育量は平年より小さくなりました。

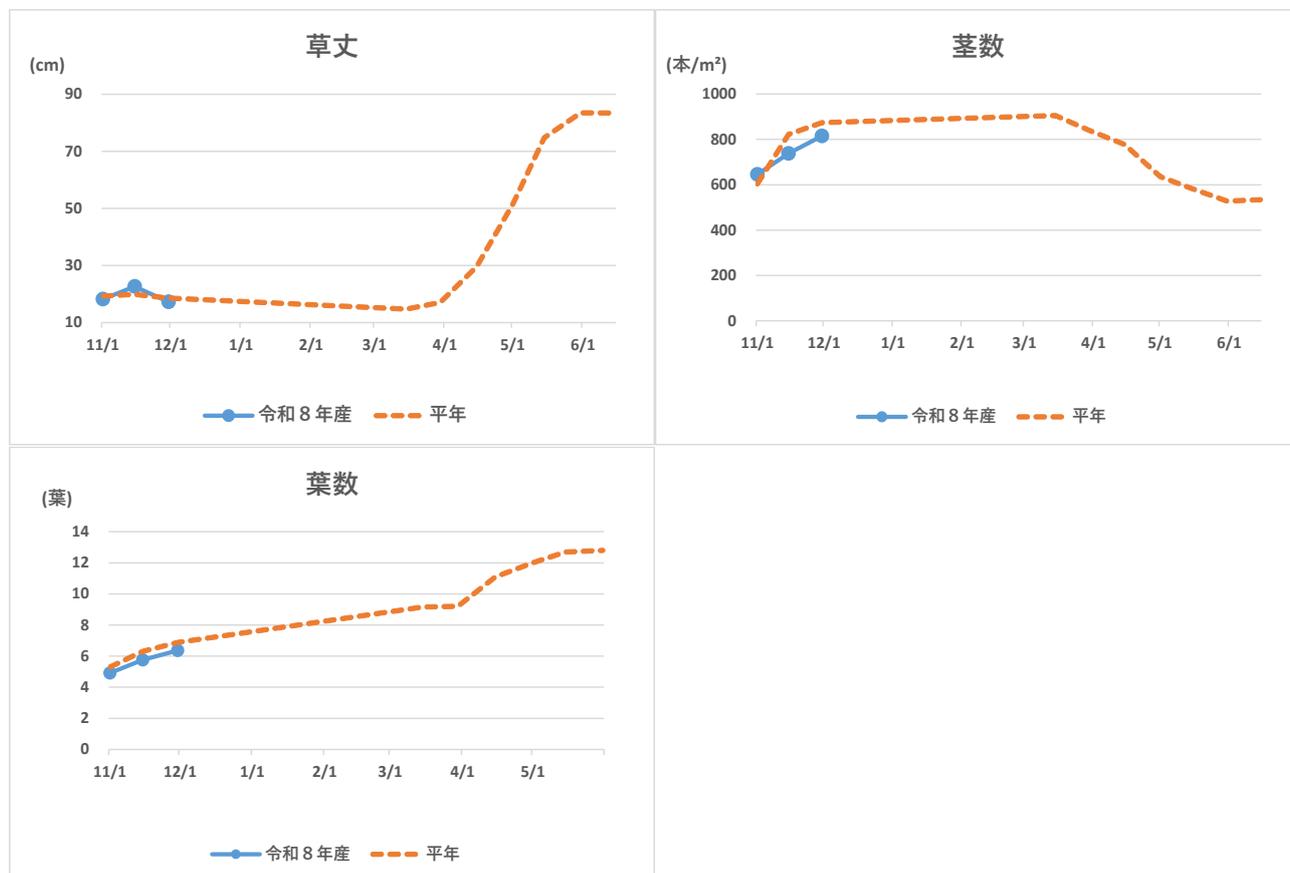


図2 令和8年産小麦の生育推移(「銀河のちから」4地点平均)

## 3 当面の管理

### (1) 排水対策

- ・融雪後に明きよや排水溝の状況を確認し、溝が崩れていたり、流れが悪い場所があれば手直しをするなど排水対策を徹底してください。

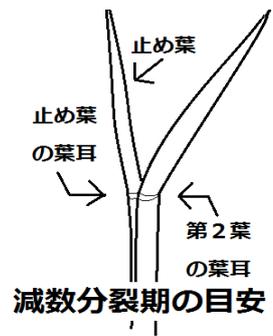
### (2) 追肥

#### ①起生期追肥

- ・起生期の追肥は、有効茎の確保に効果があります。起生期追肥では、肥効の早い硫安を窒素成分で2kg/10a程度追肥してください。

②減数分裂期追肥（葉耳間長±0 cm）

- ・減数分裂期追肥は1粒重を増やし、タンパク質含有量を高める効果があります。葉耳間長±0 cmに達した頃（減数分裂期、出穂10～7日前）に実施します。
- ・施肥量は窒素成分で2～4 kg/10aとします。ただし、草丈が長い場合や葉色が濃い場合には、倒伏が起きないように、施肥量を調整してください。



(3) 雑草対策

- ・今年気温が高い見込みであるため、雑草の発生も早まる可能性があります。ほ場の状態を確認し、必要に応じて防除を行ってください。

〈小麦栽培の除草剤〉

薬剤名	10aあたり使用量		対象雑草	使用時期	使用回数
	液剤	希釈水量			
ハーモニーDF	7.5～10g	100L	ギシギシ類 一年生広葉雑草 スズメノテッポウ カズノコグサ	節間伸長前 (3月下旬～4月上旬)	1回

※スズメノテッポウ：5葉期まで、カズノコグサ：1～3葉期まで

〈使用上の注意〉

- ア) 雑草の茎葉が濡れるように均一に散布してください。
- イ) 周辺作物へ飛散させないように注意してください。
- ウ) 散布後、完全枯死までにはほぼ1ヶ月かかります。
- エ) 散布に用いた農機具の洗浄を丁寧に行ってください。
- オ) 春散布は3月下旬～4月上旬に行ってください。使用回数が1回までのため、秋散布を行った場合は使用できません。